

〈だから出会えた〉



山梨百名山の源氏山に登ろうとしたら、林道が通行止めになっていた。4年前の台風で崩落箇所があり、未だに復旧できないままになっていた。ならばと、同じ百名山の八紘嶺に変更したらこちらも大きく迂回しなくてはならず、断念。車を本栖湖方面に走らせて竜ヶ岳に登ることにした。登山道はまだ冬景色のままで、木々の芽も硬く閉ざされたまま。桜も蕾がやっと膨らんできた程度。そんな冬枯れの山道を歩いていると、斜面に白い花が忽然と現れた。近寄ってみると、“キクザキイチゲ”か？葉がやけに細いのが気になるが……。茶色一色の風景の中にたった一輪の白い花はとても目立つ。予定していた山に登れなくてがっかりしていたが、おかげでこんなにもステキな花に出会うことができた。下山道では、斑入りの白いスマレを見つけた。調べてみたら“フイリフモトスマレ”らしい。予定していた山に登っていたら会えなかった花たち。そう思うと、林道の通行止めはこれらの花に会うためのちょっと乱暴な演出だ

ったのかもしれない。人との“出会い”や何かの“発見”も案外そんなもので、うまくいかなかったからこそ生まれるものがある。失敗は新たな出会いのチャンスなのだ。

竜ヶ岳には3度ほど登ったことがある。笹原の山頂から富士山がドドーンと見えて、大声で叫びたくなる。今日は少しガスっていたが富士山はドンと座っていた。正月、ここからのダイヤモンド富士を見に来たことがあるが、とに角寒くて、リュックのチャックが下ろせなかったことを覚えている。今日は風が強くて、上りでかいた汗があっという間に引っ込み、早々に上着を羽織った。温かいもの口に入れようとガスでお湯を沸かしたが、火が燃え移らないかヒヤヒヤものだった。可憐な花と富士山、出会いは必然だったのかも。

